

明るい選挙に関する意識調査報告書

(平成23年調査)

小山市明るい選挙推進協議会

ま え が き

昨年3月11日に起きた東日本大震災は、日本での観測史上最大の規模であるマグニチュード9.0を記録し、死者・行方不明者は約2万人、建物の全・半壊は合わせて35万戸以上、避難者は40万人以上、停電は800万戸以上にのぼり、震災による被害額は16兆から25兆円といわれています。また地震と津波による被害を受けた東京電力福島第一原子力発電所では、大量の放射性物質の漏洩を伴う重大な原子力事故に発展し、収束には何十年もかかると危惧されています。

一方、官民一体となったボランティアや復興支援による「絆」によって、徐々にではありますが復興の兆しが見えつつあり、女子サッカーワールドカップでは、日本代表の「なでしこジャパン」が優勝するなど明るい話題もあった年でした。

政治に目を向けてみると、平成21年の衆議院議員総選挙で第1党となった民主党の政権与党としての手腕を期待していたところ、この2年半で首相が3人替わり、掲げていたマニフェストがことごとく守られないことで政治不信を増幅し、次回の総選挙までには政党の再編も予想される混沌とした状態にあります。

今回実施した調査は、平成9年に実施して以来の調査となります。この間、多くの選挙が行われてきましたが、全国的に見ても投票率は紛れもなく低下しており、その対策として公職選挙法が一部改正され、平成15年12月1日から期日前投票制度が創設されました。この改正で従来の不在者投票制度が改められ、選挙期日前の投票手続の簡素化等、選挙人が投票しやすい環境が整えられたことにより、少しずつ利用者が増えているものの、全体の投票率を押し上げるまでには至っていません。

当小山市明るい選挙推進協議会でも投票率の向上のため会員を増員し、各地区、各部会の活動の活性化を図ろうとしておりますが、低投票率はおさまらず、県内の市町の中で常に下位に甘んじております。このような状況のなか、明るい選挙推進運動の効果的な実践と住民の意識の把握のため、14年ぶりに再度調査を実施いたしました。

この調査にご理解のうえ回答していただいた方々、また調査票の配布・回収や報告書の作成に携わった方々、さらに小山市選挙管理委員会事務局をはじめ、関係各機関の方々のご協力で、この報告書が作成できましたことに感謝を申し上げるとともに、この結果を基に明るい選挙の推進のための一助となることを期待するものであります。

平成24年3月1日

小山市明るい選挙推進協議会会長 山中 正

目 次

1	調査の概要	1
2	調査結果	2
①	調査対象者抽出状況	2
②	調査票回収状況	2
③	調査項目別集計	4
問1	今年は県議選と市議選の統一地方選挙がありました、この 二つの選挙の投票に行きましたか	4
問2	投票に行かなかったその理由は何ですか	6
問3	期日前投票を知っていますか	8
問4	期日前投票に行きましたか	9
問5	あなたは、最近の選挙について、全体として公正な選挙が 行われたと思いますか	10
問6	小山市の県知事選の投票率が、県内市町の中で最下位だった ことを知っていますか	12
問7	小山市の県知事選の投票率が、県内市町の中で最下位である 理由は何だと思いますか	13
問8	あなたが、いちばん関心のある政治は、どれですか	14
問9	あなたは現在の国の政治についてどのように感じていますか	16
問10	あなたは政治上の出来事にどの程度関心がありますか	18
問11	政治上の出来事に関心があるのはどのような理由ですか	20
問12	政治上の出来事に関心がないのはどのような理由ですか	22
問13	小山市に「明るい選挙推進協議会」があることを知って いましたか	24
問14	選挙啓発活動の場としてどのような場所が有効だと思 いますか	26
	選挙に関する意見	28
	(参考) 各種選挙の投票率の推移	31
	(参考) 小山市明るい選挙推進協議会活動状況	32

1 調査の概要

(1) 調査目的

この調査は、市民の選挙に対する意識の状況と、これまでの啓発活動がどれだけ一般に浸透し理解されているかを知り、今後の啓発の指針とすることを目的とする。

(2) 調査内容

- ① 投票と棄権に関する状況
- ② 政治への関心度
- ③ 選挙制度への理解度
- ④ 明るい選挙推進運動の理解度

(3) 調査対象者

平成23年9月2日現在の小山市の選挙人名簿に登載されている男女の中から約0.5%（各世代130人）を無作為抽出した。

(4) 調査期間

平成23年11月15日から平成23年11月30日

(5) 調査方法

小山市明るい選挙推進協議会の会員のうち146名が、対象となった世帯を訪問し、調査の趣旨を説明した上で調査用紙を手渡し、無記名による回答後に厳封してもらい、調査票を再度回収に訪問するといった手法で行った。

一部返信用封筒により選挙管理委員会への郵送による回答も可とした。

2 調査結果

① 調査対象者抽出状況

調査の対象を抽出した状況は、次のとおりである。

選挙人名簿登録者数	抽出数	調査対象抽出数	抽出率
129,014	650	650	0.50%

② 調査票回収状況

ア 男女別の回収状況

男女別の調査対象数と回収の状況は、次のとおりである。

性別	調査対象数	回収数	未回収数	回収率
男	325	237	88	72.92%
女	325	261	64	80.31%
計	650	498	152	76.62%

- ・ 未回収の事由としては、拒否・居所不明・長期不在によるものである。
- ・ 比較的女性の方が多く回収されている。

イ 年代別回収状況

10歳きざみの年代ごとの調査対象数と回収の状況は、次のとおりである。

年代	調査対象数			回収数			回収率		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
20歳代	130	65	65	85	40	45	65.38%	61.54%	69.23%
30歳代	130	65	65	102	46	56	78.46%	70.77%	86.15%
40歳代	130	65	65	106	53	53	81.54%	81.54%	81.54%
50歳代	130	65	65	101	45	56	77.69%	69.23%	86.15%
60歳以上	130	65	65	104	53	51	80.00%	81.54%	78.46%
計	650	325	325	498	237	261	76.62%	72.92%	80.31%

- ・ 男性は40歳代と60歳以上、女性は30歳代と50歳代の回収率が高かった。

ウ 地区別回収状況

地区別（旧町村別）の回収状況は、次のとおりである。

地区	調査対象数			回収数			回収率		
	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
小山地区	203	102	101	187	88	99	92.12%	86.27%	98.02%
大谷地区	162	83	79	103	51	52	63.58%	61.45%	65.82%
間々田地区	110	54	56	81	40	41	73.64%	74.07%	73.21%
生井地区	8	5	3	7	4	3	87.50%	80.00%	100.00%
寒川地区	7	3	4	6	2	4	85.71%	66.67%	100.00%
豊田地区	30	14	16	19	10	9	63.33%	71.43%	56.25%
中地区	12	6	6	10	5	5	83.33%	83.33%	83.33%
穂積地区	16	8	8	11	5	6	68.75%	62.50%	75.00%
桑地区	79	39	40	52	22	30	65.82%	56.41%	75.00%
絹地区	23	11	12	22	10	12	95.65%	90.91%	100.00%
計	650	325	325	498	237	261	76.62%	72.92%	80.31%

- ・ 地区ごとになると、男女の回収率の差が出てくるところがあるが、生井・寒川・絹地区の女性は、全て回収できた。

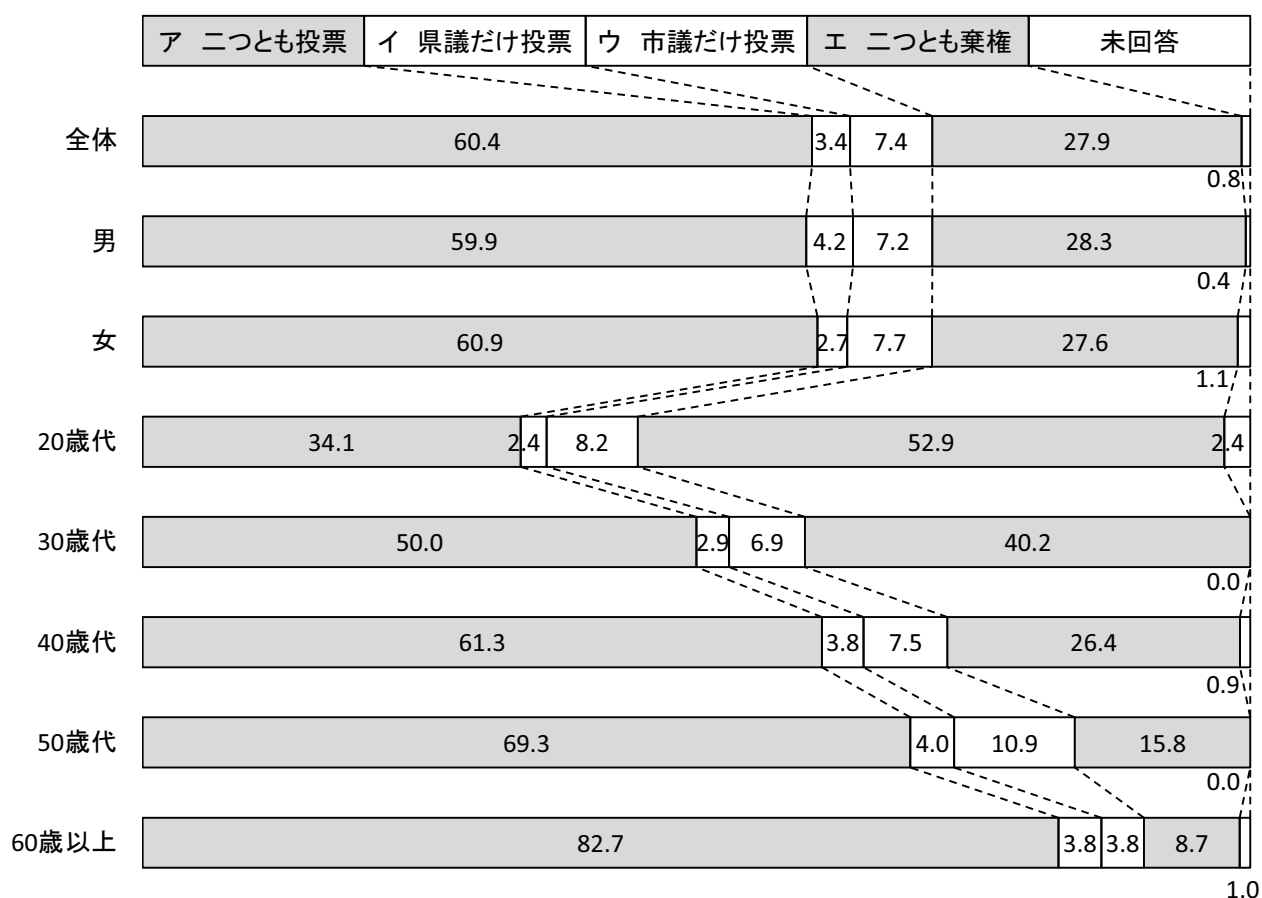
③ 調査項目別集計

問1. 今年は県議選と市議選の統一地方選挙がありました。この二つの選挙の投票についておたずねします。

- ア 二つとも投票に行った
- イ 県議選だけ行った
- ウ 市議選だけ行った
- エ 二つとも投票に行かなかった

投票の状況

(単位：%)



問1：投票の状況について

- ① 男女別の投票状況を見ると、両方投票したと回答したのは、男性59.9%、女性60.9%。県議選のみ投票したと回答したのは、男性4.2%、女性2.7%。市議選のみ投票したと回答したのは、男性7.2%、女性7.7%。両方棄権したと回答したのは、男性28.3%、女性27.6%。未回答が男性0.4%、女性1.1%となっており、どの項目を見ても、男女にはほとんど差異はない。

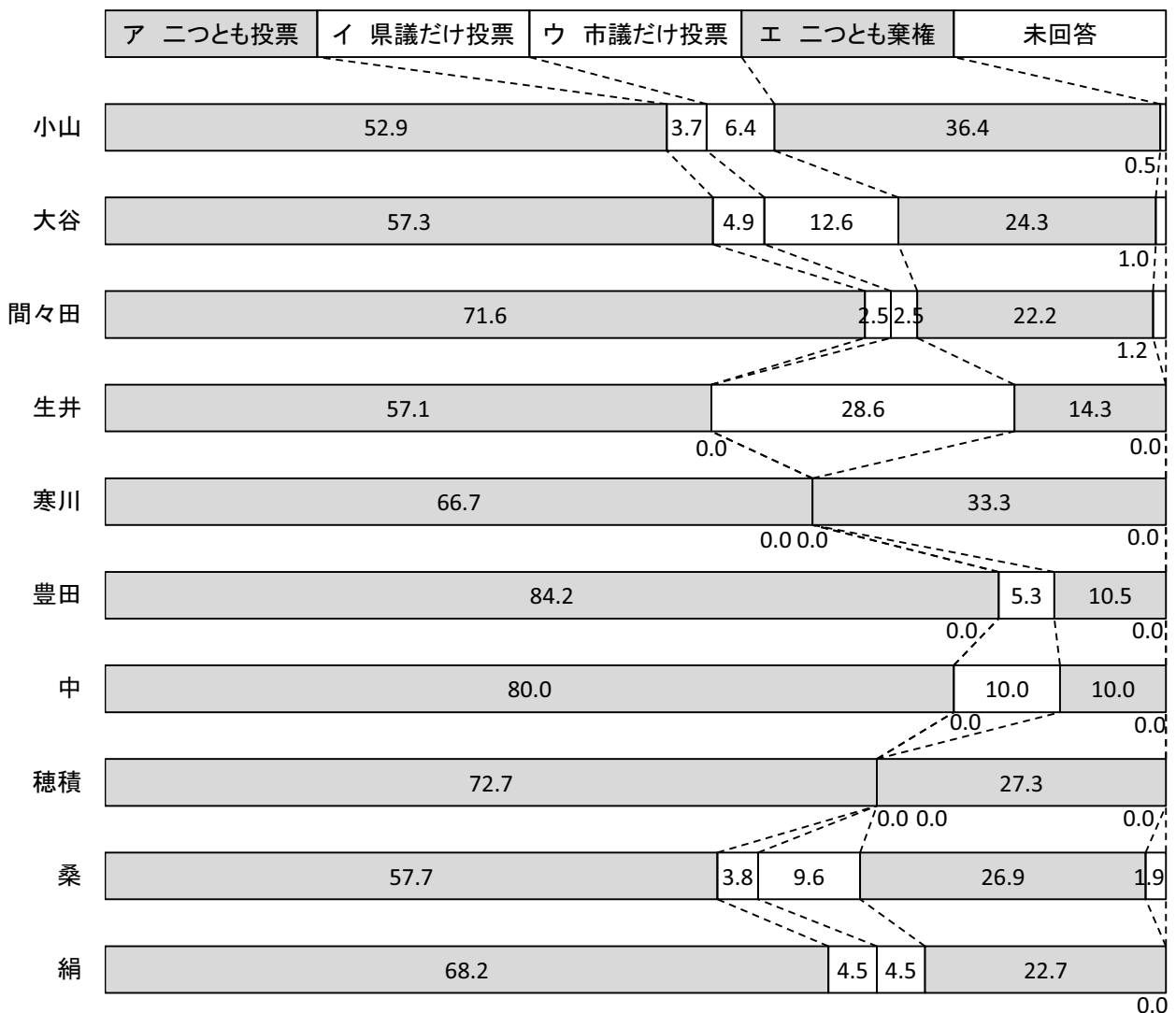
② 年代別で見ると、年齢が高くなるにしたがって、投票した割合も高くなっているなか、40歳代が全体の平均とほぼ同じ割合を示している。反面、20歳代は二つとも投票したと回答したのは34.1%で、60歳以上の82.7%と比べると大きな差が生じている。

③ 県議選と市議選を比較すると、市議選だけ投票した方が高い割合を示しているが、どの年代の投票状況を見ても、二つとも投票に行ったという方が、県議選のみ及び市議選のみ投票に行ったという人の合計より多くなっている。

(参考) なお、投票の状況を地区別にみると、次のようになった。

投票の状況（地区別）

(単位：%)



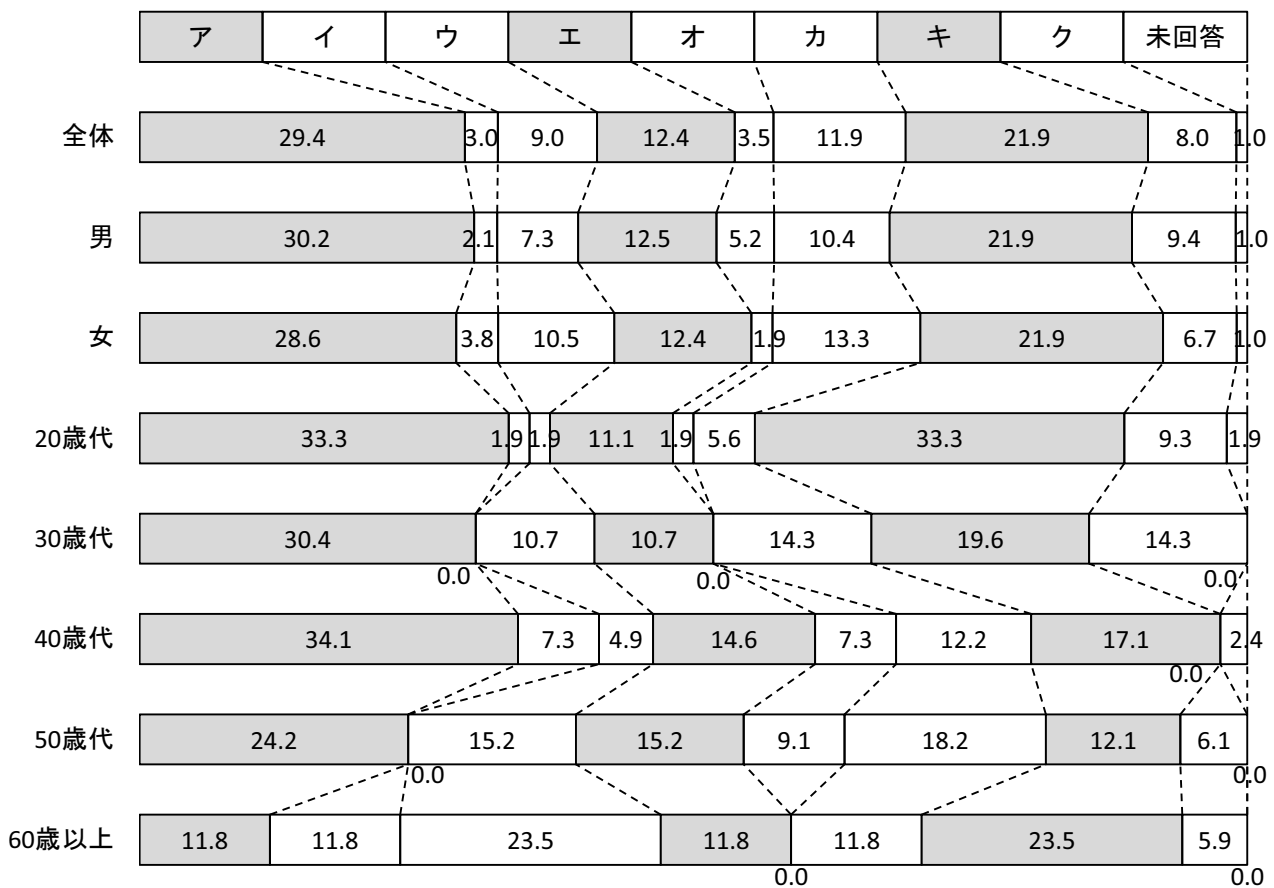
問2. 問1で、イ・ウ・エのいずれかと回答された方にうかがいます。

投票に行かなかった理由は何ですか。

- ア 用事があったから
- イ 病気だったから
- ウ 適当な候補者がいなかったから
- エ 投票しても政治はかわらないから
- オ 支持する政党や候補者の現状に不満があり、あえて投票しなかった
- カ 政策や候補者の人物についてよくわからなかったから
- キ 選挙にあまり関心がなかったから
- ク その他

投票に行かなかった理由

(単位：%)



問2：投票に行かなかった理由について

- ① 全体で見ると、投票に行かなかった理由として、1番目が「ア 用事があったから」で、29.4%。2番目が「キ 選挙にあまり関心がなかったから」で、21.9%。3番目が「エ 投票しても政治はかわらないから」で、12.4%。4番目が「カ 政策や候補者の人物についてよくわからなかったから」で、11.9%となっている。

- ② 投票に行かなかった理由ごとに男女を比べても、大きな差異は出ていない。
- ③ 年代別にみると、20歳代は「ア 用事があったから」と「キ 選挙にあまり関心なかったから」が、同じ33.3%と高い割合を占めている。特に「キ 選挙にあまり関心なかったから」の占める割合が低いのは50歳代で、12.1%となっている。
- また、20歳代から50歳代までは「ア 用事があったから」の割合が一番高くなっているが、なかでも40歳代に占める割合は34.1%と、全年代の中で最も高い。
- 一方、60歳以上は「ウ 適切な候補者がいなかったから」と「キ 選挙にあまり関心なかったから」が同じ23.5%と高く、投票に行かなかった理由が他の年代と差異を生じた結果となった。
- ④ その他の理由の中には、「候補者の人物像やその背景が見えてこない」との意見があった。選挙への事前の活動、広報が求められている。

なくそう棄権 出かけよう投票

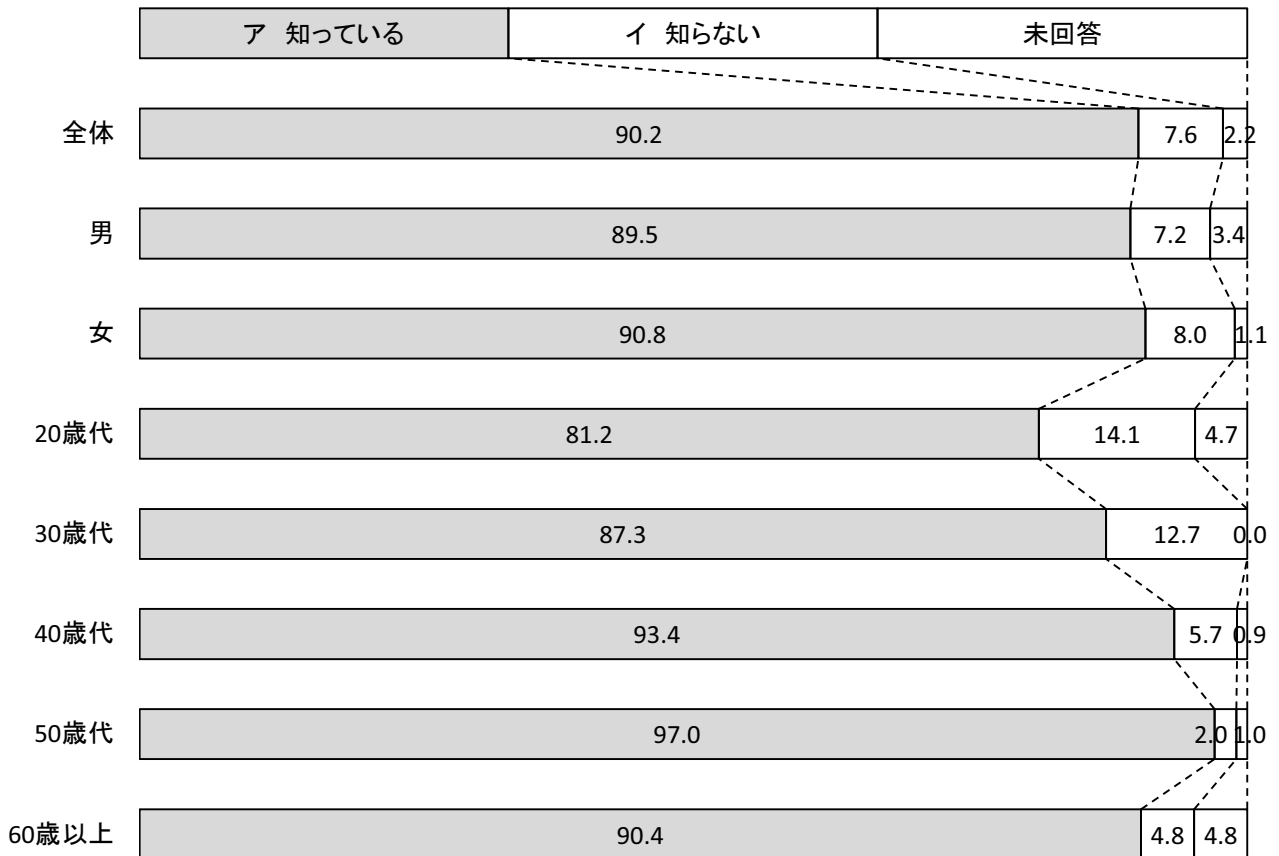


問3. 期日前投票を知っていますか。

- ア 知っている
- イ 知らない

期日前投票の認知度

(単位：%)



問3：期日前投票の認知度について

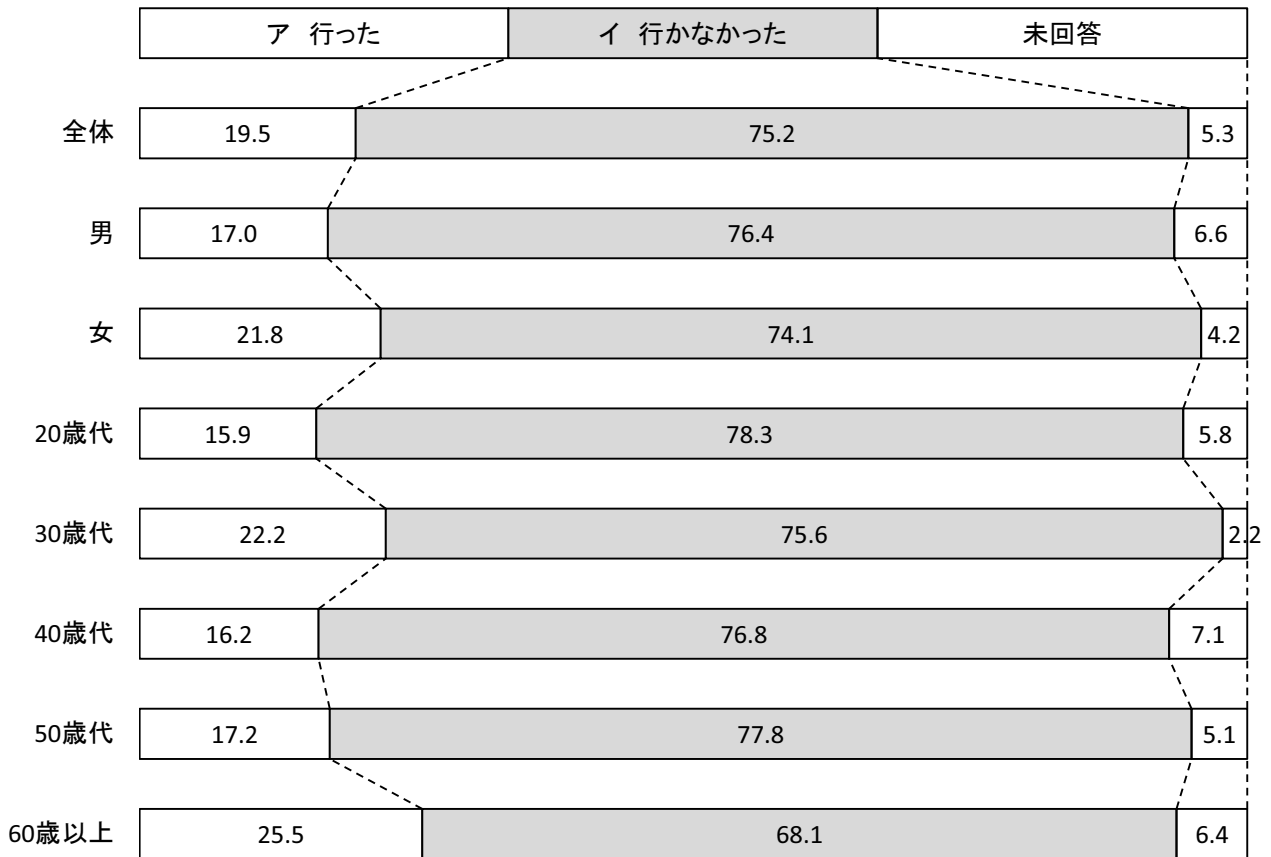
- ① 期日前投票を知っていますかとの問いに対して、全体で見ると、「ア 知っている」と回答した人が90.2%と大きな割合を占めている。
- ② 男女別にみると、若干女性の方が知っている割合が大きい。
- ③ 年代別にみると、20歳代から50歳代にかけて「ア 知っている」と答えた人の割合が徐々に増えていることがわかる。

問4. 問3で、アと回答された方にうかがいます。

- ア 期日前投票に行った
- イ 期日前投票に行かなかった

期日前投票の状況

(単位：%)



問4：期日前投票の状況

- ① 期日前投票を知っていると答えた方に、期日前投票に行ったかと尋ねたところ、全体で見ると、「ア 行った」と回答した人は19.5%と少なく、「イ 行かなかった」と回答した人は75.2%と大きな割合を占めている。
- ② 男女別にみると、あまり差異はみられないが、女性の方が期日前投票の利用率が高いことがわかる。
- ③ 年代別にみると、20歳代・40歳代・50歳代での利用率がほぼ同じであるのに対し、30歳代と60歳以上の利用率が高くなっている。

問5. あなたは最近の選挙について、全体として公正な選挙が行われたと思いますか。

- ア 公正な選挙だった
- イ どちらかと言えば、公正な選挙だった
- ウ 不明朗な選挙だった
- エ わからない

最近の選挙の公正さ

(単位：%)

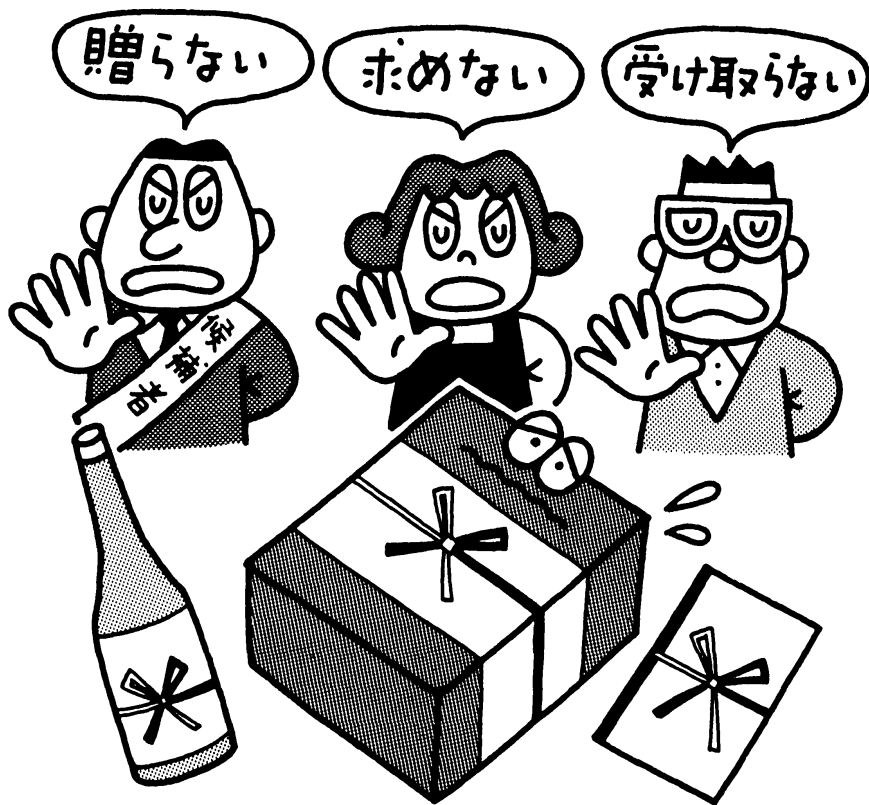
	ア 公正だった	イ どちらかと言えば公正	ウ 不明朗だった	エ わからない	未回答
全体	25.5	26.3	5.4	38.2	4.6
男	29.1	24.5	5.1	36.7	4.6
女	22.2	28.0	5.7	39.5	4.6
20歳代	22.4	20.0	5.9	47.1	4.7
30歳代	19.6	26.5	5.9	48.0	0.0
40歳代	25.5	21.7	4.7	45.3	2.8
50歳代	24.8	34.7	5.0	27.7	7.9
60歳以上	34.6	27.9	5.8	24.0	7.7

問5：最近の選挙の公正さについて

- ① 公正な選挙が行われたと思いますかとの問いに対して、全体で見ると、「エ わからない」と回答した人が38.2%と大きな割合を占めている。「ア 公正な選挙だった」と、「イ どちらかと言えば、公正な選挙だった」を合計すると51.8%となっている。「ウ 不明朗な選挙だった」と回答した人は5.4%で、前回調査の10.5%より減少している。
- ② 男女別にみると、どの項目を見ても、ほぼ同じ割合の回答となっている。

③ 年代別にみると、20歳代から40歳代の回答では「オ わからない」と答えた人が45%を超え、他の年代に比べて高い割合になっている。一方、50歳代と60歳以上では、「ア 公正な選挙だった」と、「イ どちらかと言えば、公正な選挙だった」の合計が59%を超え、他の年代に比べて高い割合になっている。

明るい選挙の「三ない運動」

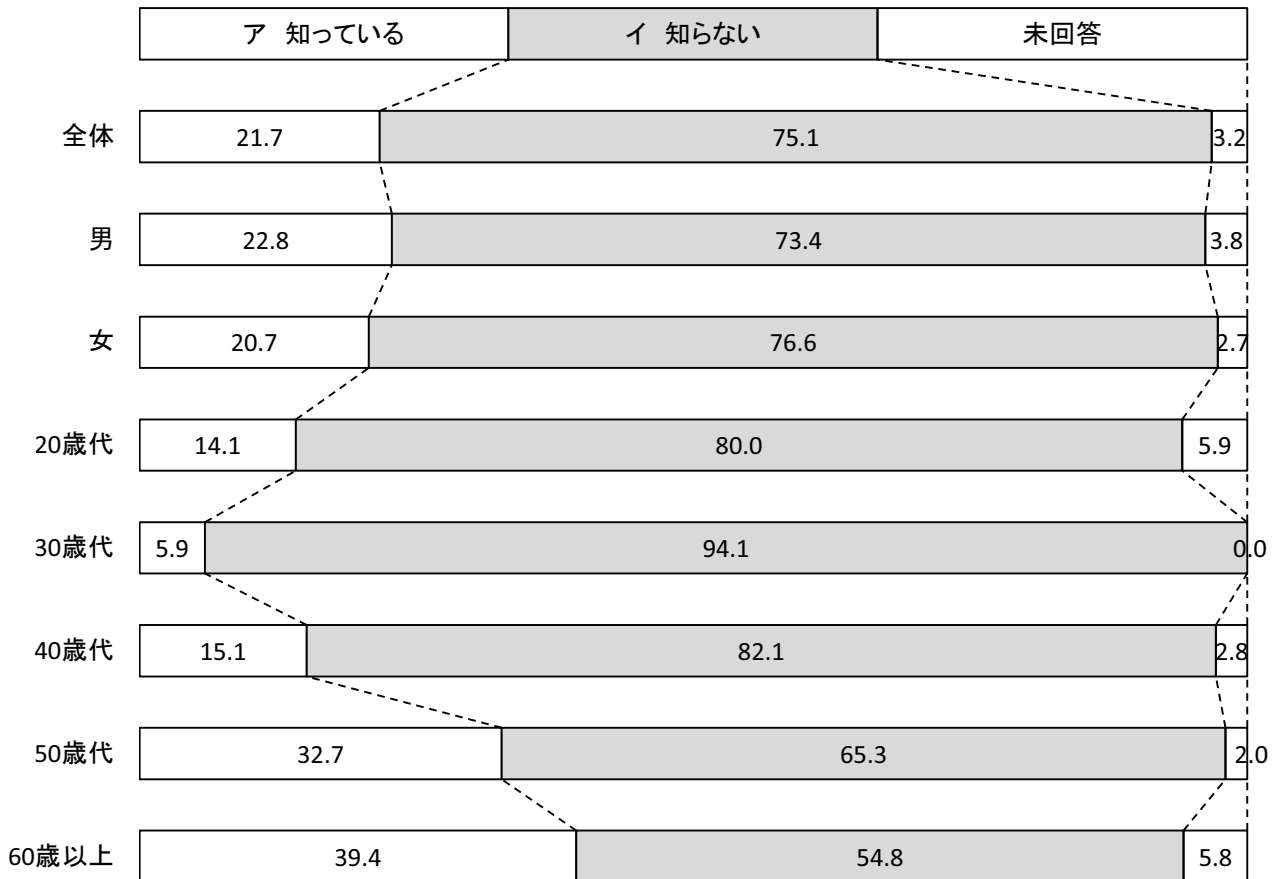


問6. 小山市の県知事選の投票率が、県内市町の中で最下位だったことを知っていますか。

- ア 知っている
- イ 知らない

知事選投票率の県下最下位の認知度

(単位：%)



問6：知事選投票率の県下最下位の認知度

- ① 投票率が県内で最下位だったことを知っていますかとの問いに対して、全体で見ると、「ア 知っている」と回答した人は21.7%で、前回調査の51.1%より低くなっている。逆に「イ 知らない」と回答した人は75.1%と大きな割合を占めている。
- ② 男女別にみると、あまり差異はみられないが、男性の方が若干認知度が高くなっている。
- ③ 年代別にみると、「ア 知っている」と回答した人は30歳代が5.9%と20歳代より8.2%低い割合を示しているほかは、年代順に認知度が高くなっている。

問7. 小山市の県知事選の投票率が、県内市町の中で最下位である理由は何だと思えますか。気づいたことをお書きください。

(H20知事選県内平均投票率：32.28%、小山市投票率：22.46%)

投票率が県下最下位の理由について

上記の問いかけに対し、様々な意見が寄せられたが、なかでも「政治や選挙に対する興味、関心が薄いから」、「誰がなっても同じだから」、「投票しても何も変わらないから」といった政治離れや政治に対するあきらめの意見が過半数を占めた。

その他の意見を要約すると次のようになった。

○ 選挙管理委員会の努力不足と思われる意見

- ・ 選挙自体のPRが不足しているから
- ・ 候補者の政策や人物について、情報が伝わってこないから
- ・ 高齢者が投票所に行きづらいから

○ 候補者に起因すると思われる意見

- ・ 候補者に魅力がないから
- ・ 県知事の仕事や県政について、よくわからないから
- ・ 当選すると選挙前とは別人になってしまうから

○ 小山市の地理的要因と思われる意見

- ・ 宇都宮市が中心になりがちで、なじみがないから
- ・ 小山市での選挙運動が少ないから

○ 小山市の社会構造に起因すると思われる意見

- ・ 転入者や県外通勤者が多く、地域への関心が薄いから
- ・ 若者が多く、政治や選挙に対する意識が低いから

問8. あなたが、いちばん関心のある政治は、次のどれですか。

- ア 国際間の政治
- イ 国の政治
- ウ 都道府県の政治
- エ 市町村の政治
- オ 関心がない

いちばん関心のある政治

(単位：%)

	ア 国際間	イ 国	ウ 都道府県	エ 市町村	オ 関心がない	未回答
全体	11.1	54.9	3.8	16.3	11.1	2.7
男	12.1	54.8	4.8	14.5	10.1	3.6
女	10.3	54.9	2.9	17.9	12.1	1.8
20歳代	11.8	51.8	1.2	9.4	21.2	4.7
30歳代	16.0	51.9	2.8	13.2	15.1	0.9
40歳代	9.2	60.6	5.5	9.2	13.8	1.8
50歳代	12.3	55.7	2.8	22.6	5.7	0.9
60歳以上	7.0	53.9	6.1	25.2	2.6	5.2

問8：いちばん関心のある政治

- ① あなたが、いちばん関心のある政治は、次のどれですかとの問いに対し、全体で見ると「イ 国の政治」と回答した人が54.9%。次いで「エ 市町村の政治」と回答した人が16.3%。3番目が「ア 国際間の政治」と「オ 関心がない」で11.1%。最後に「ウ 都道府県の政治」で3.8%となっており、未回答は2.7%でした。

- ② 男女別にみると、「イ 国の政治」については、ほぼ同様であるが、「エ 市町村の政治」については、女性が17.9%関心があるのに対し、男性が14.5%。「ウ 都道府県の政治」については、男性が4.8%関心があるのに対し、女性が2.9%と若干、関心度の違いが見られた。
- ③ 年代別にみると、20歳代では「オ 関心がない」と答えた人が21.2%と他の年代と比べ一番高くなっている。30歳代では、「ア 国際間の政治に関心がある」と答えた人が16.0%と、他の年代と比べ一番高くなっている。40歳代では、「エ 市町村の政治に関心がある」とする割合が9.2%と、他の年代と比べ一番低くなっている。また、「オ 関心がない」と答えた割合が13.8%となっており、50歳代・60歳以上と比べると高い割合となっている。50歳代・60歳以上については、選んだ項目の順位及び割合は、ほぼ同じ傾向であった。「オ 関心がない」との回答は、年代を増すごとに割合が少なくなっている。

政治の話も 世間話感覚で

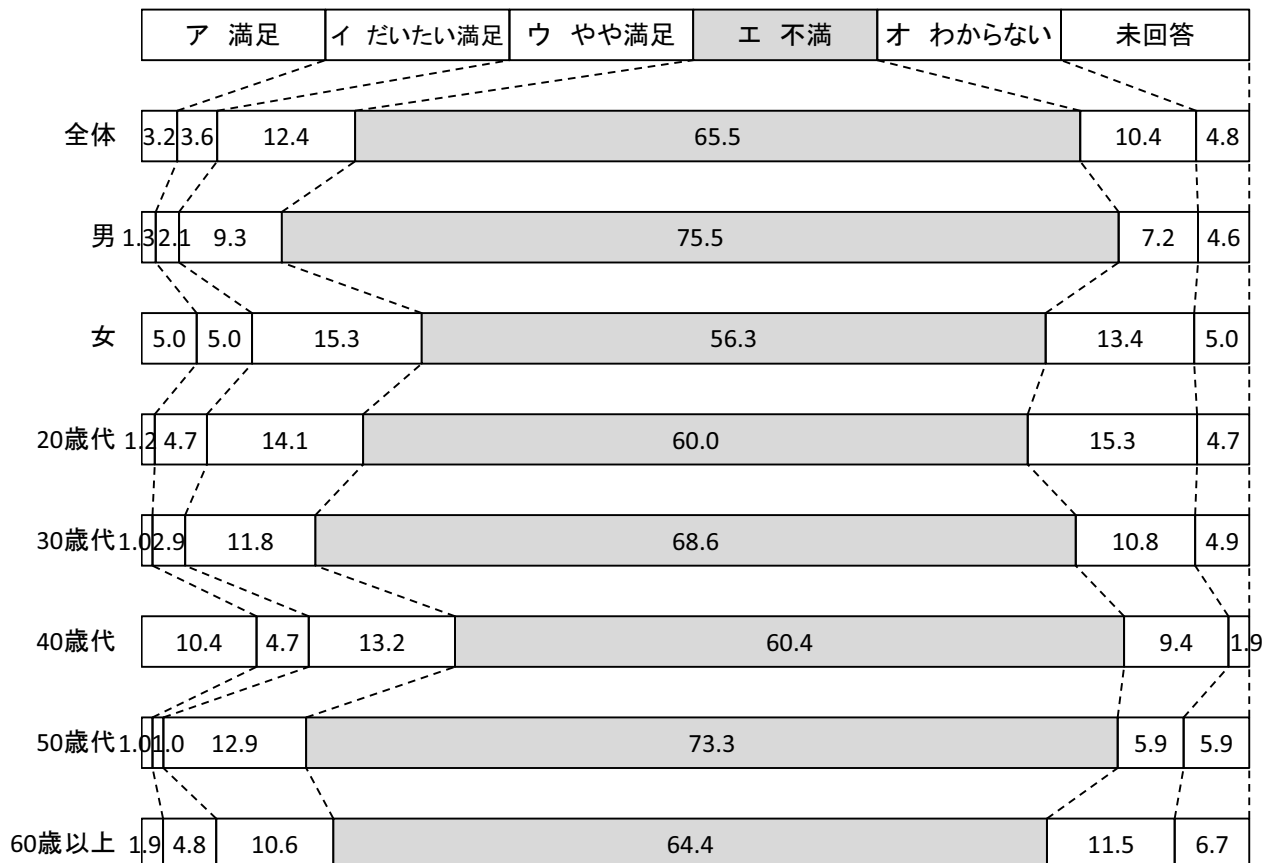


問9. あなたは現在の国の政治についてどのように感じていますか。

- ア 満足している
- イ だいたい満足している
- ウ やや満足している
- エ 不満である
- オ わからない

現在の国の政治について

(単位：%)



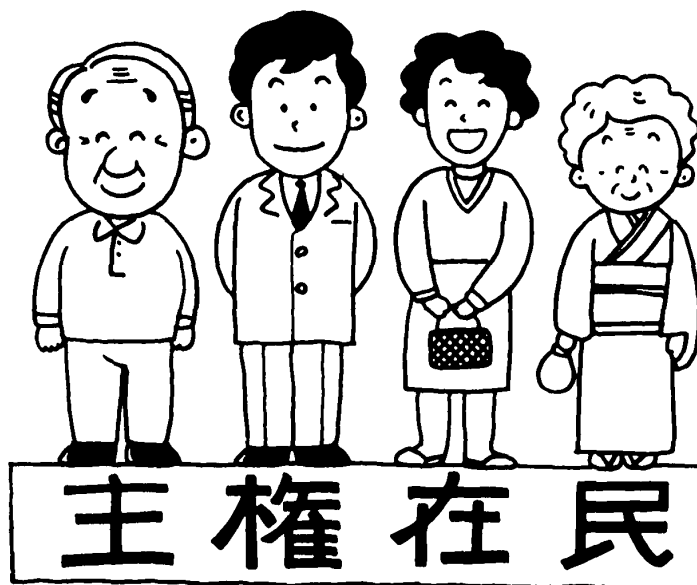
問9：国の政治に対する満足度

① あなたは現在の国の政治についてどのように感じていますかとの問いに対し、全体で見ると、「エ 不満である」と回答した人が65.5%と非常に高い割合を占めており、前回調査の57.5%と比べても多くなっている。「ア 満足している」が3.2%、「イ だいたい満足している」が3.6%、「ウ やや満足している」が12.4%で、「ア」「イ」「ウ」を合計しても19.2%と満足、不満足の間には大きなギャップがある。

なお、「オ わからない」と回答している割合は10.4%となっている。

- ② 男女別にみると、男性が「エ 不満である」と回答した人が75.5%であるのに対し、女性が56.3%と低い割合となっている。
- ③ 年代別においても、全ての年代で「エ 不満である」が占める割合が非常に高い。特に50歳代が73.3%と他の年代に比べ一番高い割合を示している。

かけがえのない民主主義のために。

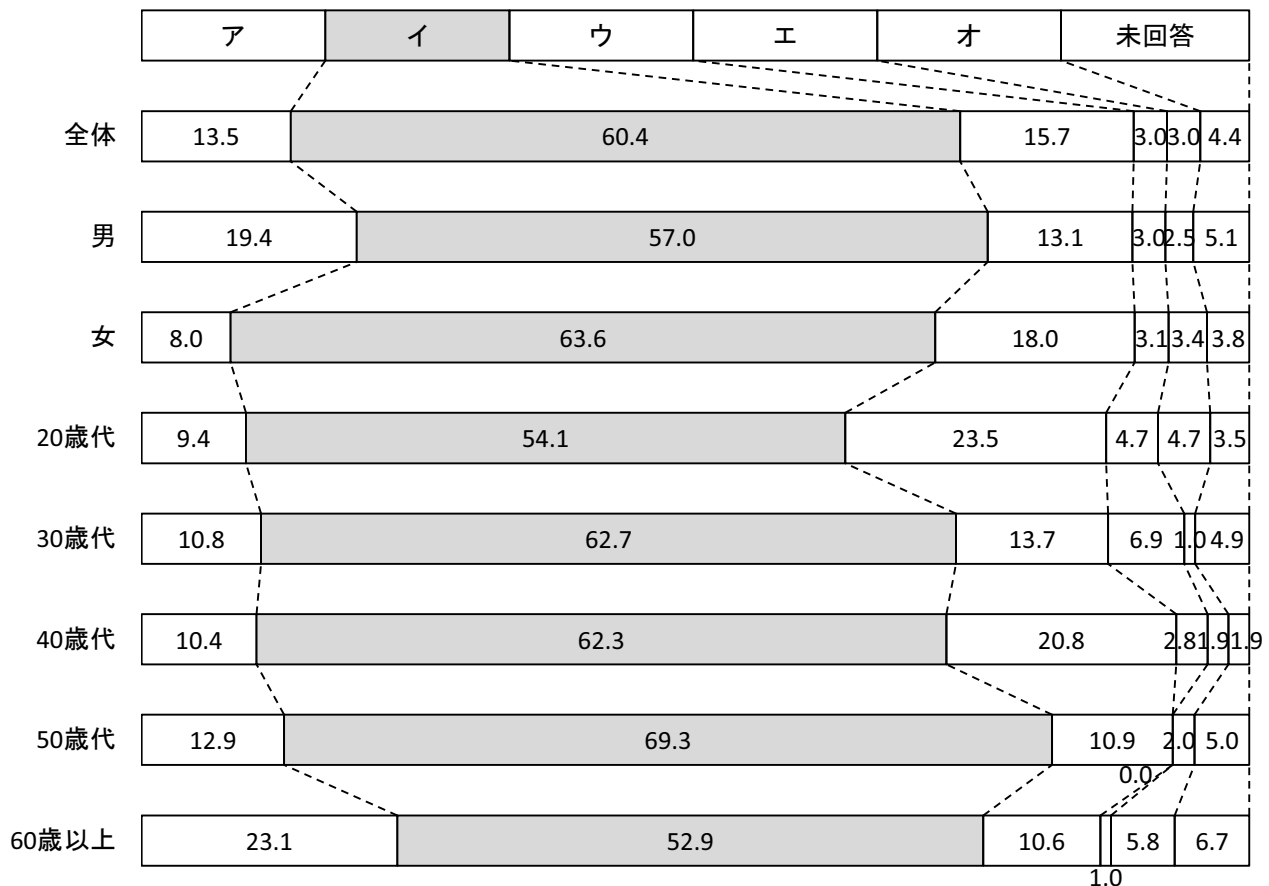


問10. あなたは政治上の出来事にどの程度関心がありますか。

- ア 非常に関心を持っている
- イ ある程度関心を持っている
- ウ あまり関心がない
- エ まったく関心がない
- オ わからない

政治上の出来事への関心度

(単位：%)

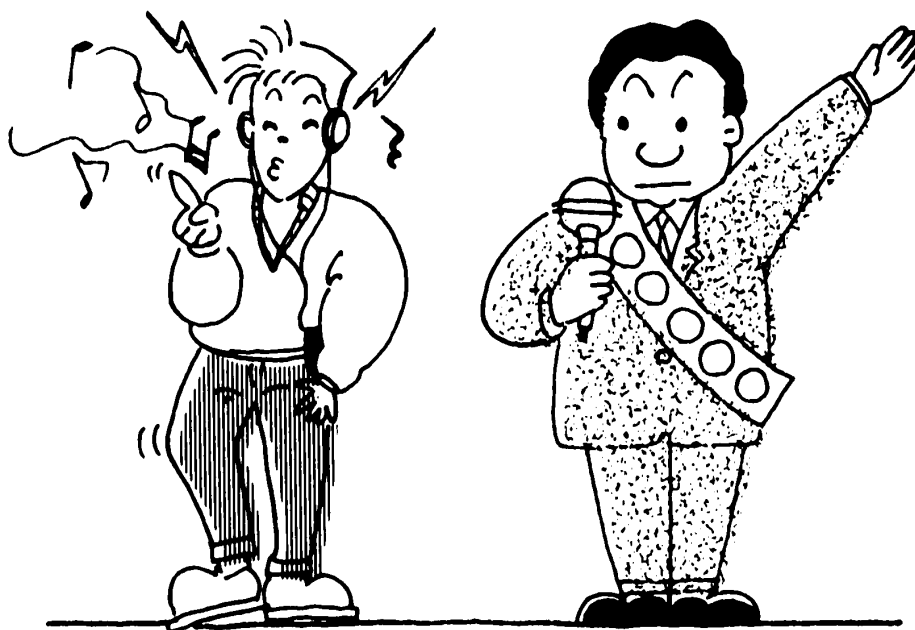


問10：政治上の出来事への関心度

① あなたは政治上の出来事にどの程度関心がありますかとの問いに対し、全体で見ると、「ア 非常に関心を持っている」と回答した人が13.5%。「イ ある程度関心を持っている」と回答した人が60.4%となっており、「ア」「イ」を合計すると73.9%と高い割合となっている。これは前回調査の69.3%より4.6%高く、政治への関心が高まっているのが分かる。

- ② 男女別にみると、「ア 非常に興味を持っている」については、男性が19.4%であるのに対し、女性は8.0%と、男性の2分の1を下回る数値となった。
- ③ 年代別にみると、20歳代では「ウ あまり興味がない」と回答した人が23.5%、「エ まったく興味がない」と回答した人が4.7%となっており、「ウ」「エ」を合計すると28.2%と、他の年代と比べ一番高い割合となっている。60歳以上では、「ア 非常に興味を持っている」とする割合が23.1%と、他の年代と比べ一番高い割合となっている。

無関心はイケマセン!

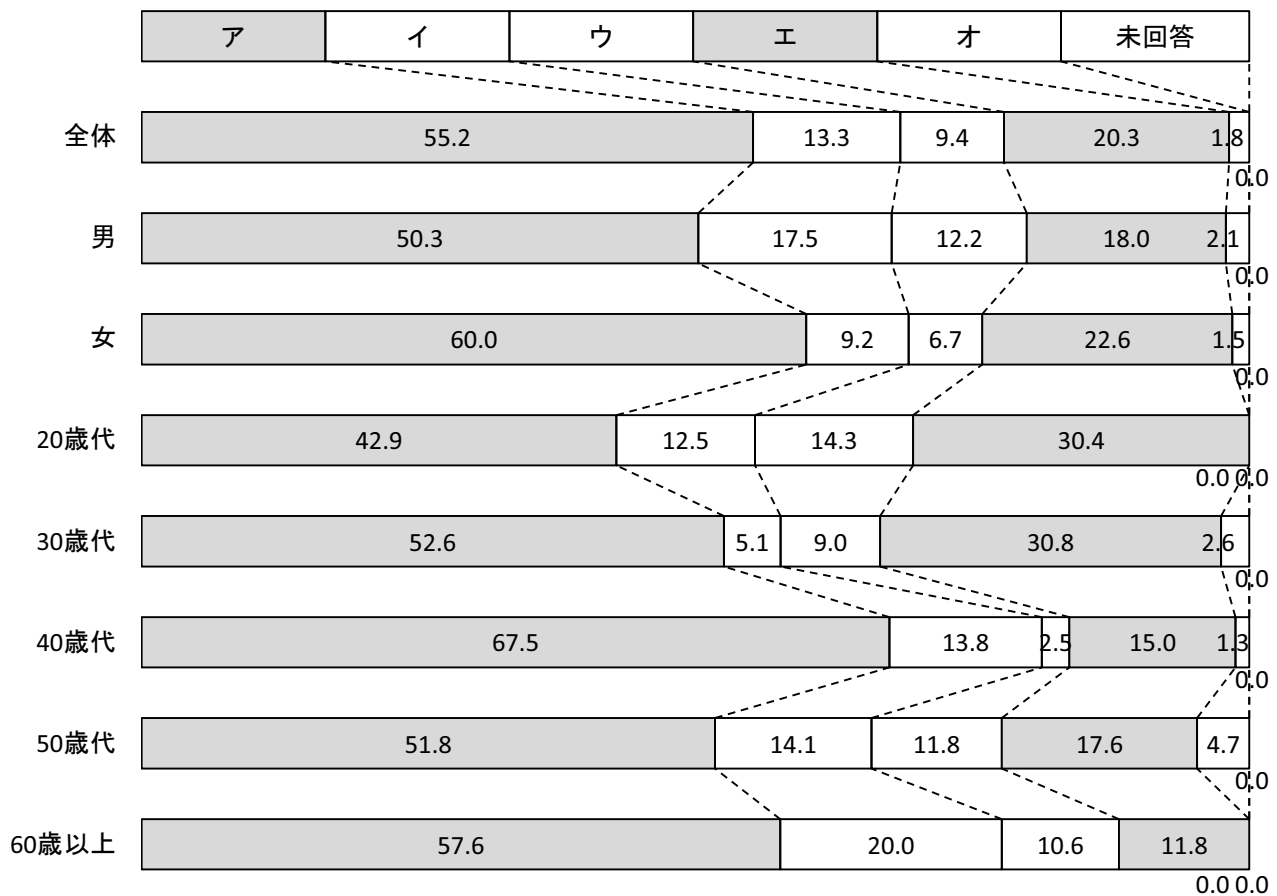


問11. 問10で、アまたはイと回答された方にうかがいます。関心があるのはどのような理由ですか。

- ア 自分の生活に密接に関係があるから
- イ 個人が政治に関心を持つことが民主政治に必要なだから
- ウ 政治問題自体に興味があるから
- エ マスメディアから自然と耳に入ってくるから
- オ その他

政治上の出来事に関心のある理由

(単位：%)



問11：政治上の出来事に関心のある理由

① 政治に関心があると答えた方に、関心があるのはどのような理由ですかと尋ねたところ、全体で見ると、「ア 自分の生活に密接に関係があるから」と回答した人が55.2%と、一番高い割合を占めている。これは、前回調査の43.4%より11.8%高い。

また、「イ 個人が政治に関心を持つことが民主政治に必要なだから」と回答した人は13.3%であるが、これは、前回調査の21.8%より8.5%低くなっている。

② 男女別にみると、「ア 自分の生活に密接に関係があるから」と回答した人は、男性が50.3%であるのに対し、女性は60.0%と高い割合を示している。

逆に「イ 個人が政治に関心を持つことが民主政治に必要なだから」と「ウ 政治問題自体に興味があるから」については、女性より男性の方が高い割合を示している。

③ 年代別にみると、「エ マスメディアから自然と耳に入ってくるから」と回答したのが、20歳代では30.4%、30歳代では30.8%と他の年代と比べ高い割合となっている。40歳代では「ア 自分の生活に密接に関係があるから」と回答したのが67.5%と、他の年代と比べ一番高い割合となっているが、逆に「ウ 政治問題自体に興味があるから」と回答したのが2.5%となっており、他の年代と比べ一番低い割合となっている。

④ その他の理由の中には、「自分や家族の将来が不安だから」、「将来像をどのように示してくれるかを期待して待っている。」などの意見があった。

政治への参加は まず一票から

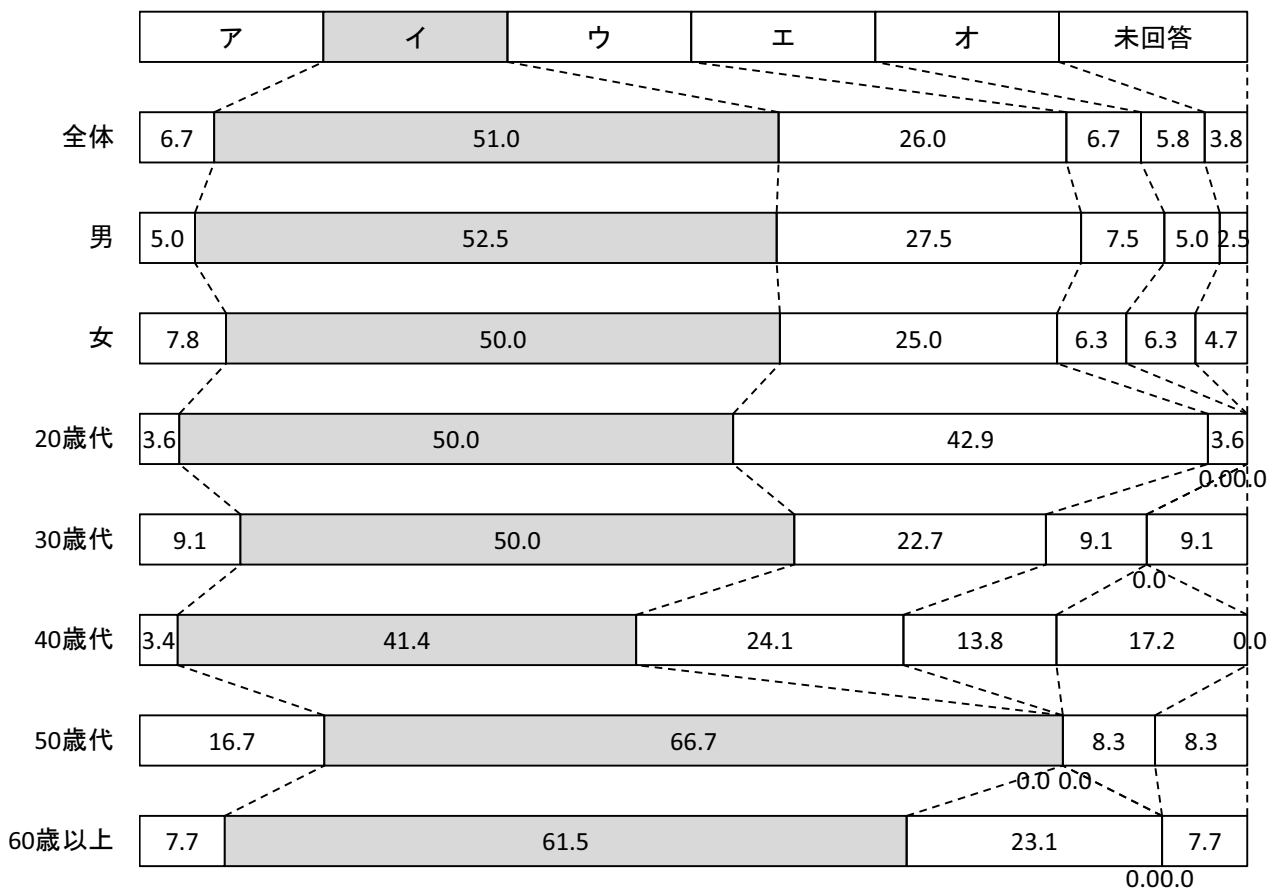


問12. 問10で、ウまたはエと回答された方にうかがいます。関心がないのはどのような理由ですか。

- ア 自分の生活に政治は関係がないから
- イ 個人の意見は政治に影響を与えないから
- ウ 政治問題自体に興味がないから
- エ 政治に関心を持つ暇がないから
- オ その他

政治上の出来事に関心のない理由

(単位：%)



問12：政治上の出来事に関心のない理由

① 政治に関心がないと答えた方に、関心がないのはどのような理由ですかと尋ねたところ、項目別に特徴をみると、次のようになった。

「ア 自分の生活に政治は関係がないから」については、全体で6.7%と低い割合を示している。これは、問11の設問で「関心がある」と回答した中で、生活に密接に関係するとした割合が高かったこととあわせて考えると、関心のある人でもない人でも、政治と生活は関わりがあると考える人が多いといえる。

「イ 個人の意見は政治に影響を与えないから」については、本来民主政治はより民意を反映させる制度であり、あえて関心がない人の項目に入れたところ、全体では51.0%と高い割合を示している。年代別では50歳代が66.7%と他の年代と比べて、一番高い割合を示している。

「ウ 政治問題自体に興味がないから」については、全体で26.0%となっており、年代別では20歳代が42.9%、40歳代が24.1%、60歳以上が23.1%と政治離れがみられる。また、50歳代ではひとりもいなかった。

「エ 政治に関心を持つ暇がないから」については、全体で6.7%となっているが、50歳代と60歳以上ではひとりもいなかった。

- ② その他の理由の中に、テレビで国会中継を見たと思われる回答者から、「寝ている人がいるし、ヤジもすごい。こどもの教育上、最悪な人たちばかりで、日本はこれからどうなるのだろうと不安になる。」との政治家不信の意見があった。

一票の力を信じよう！

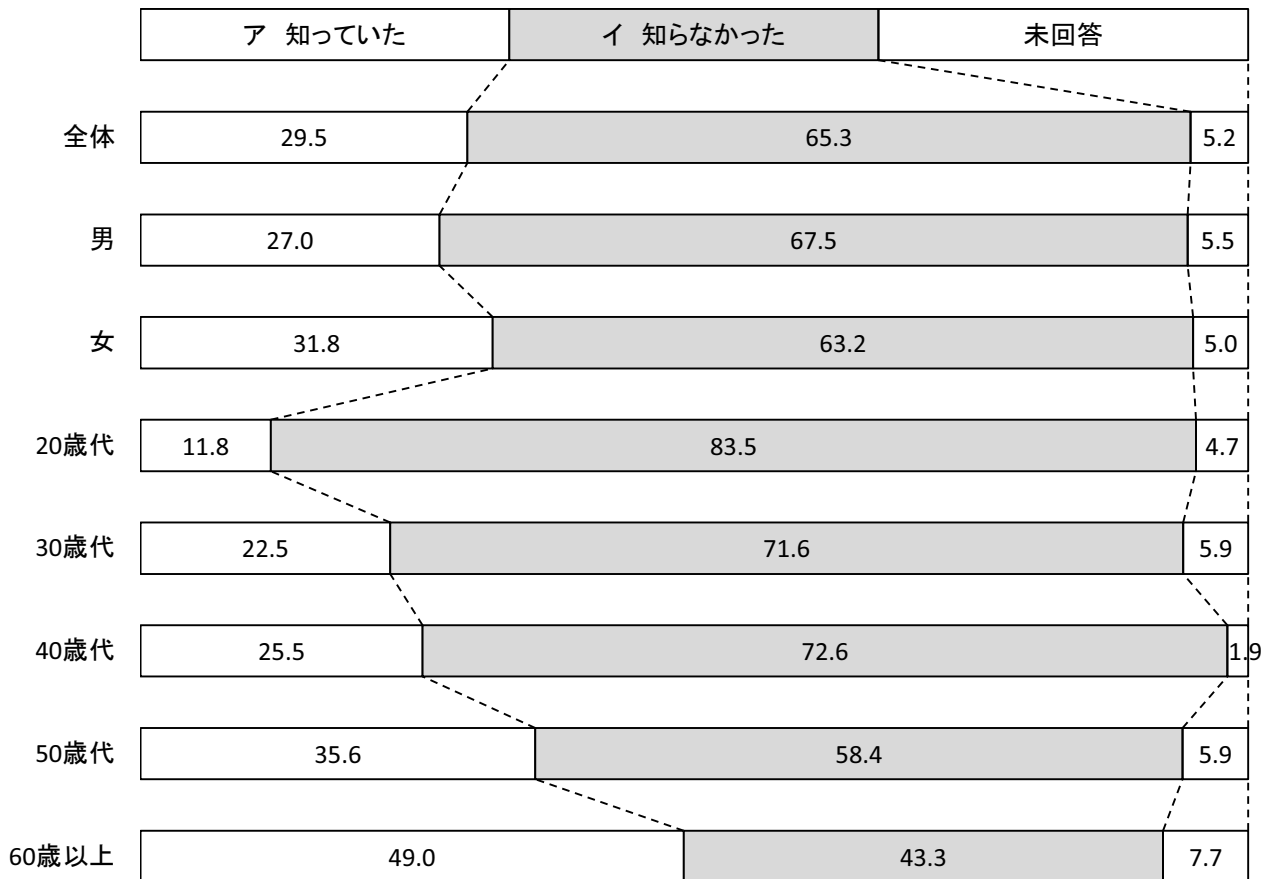


問13. 小山市に「明るい選挙推進協議会」があることを知っていましたか。

- ア 知っていた
- イ 知らなかった

明推協の知名度

(単位：%)



問13：明推協の知名度について

① 明るい選挙推進協議会を知っていましたかとの問いに対し、「ア 知っていた」と回答した人は、全体で29.5%と前回調査の38.2%より8.7%低くなっている。

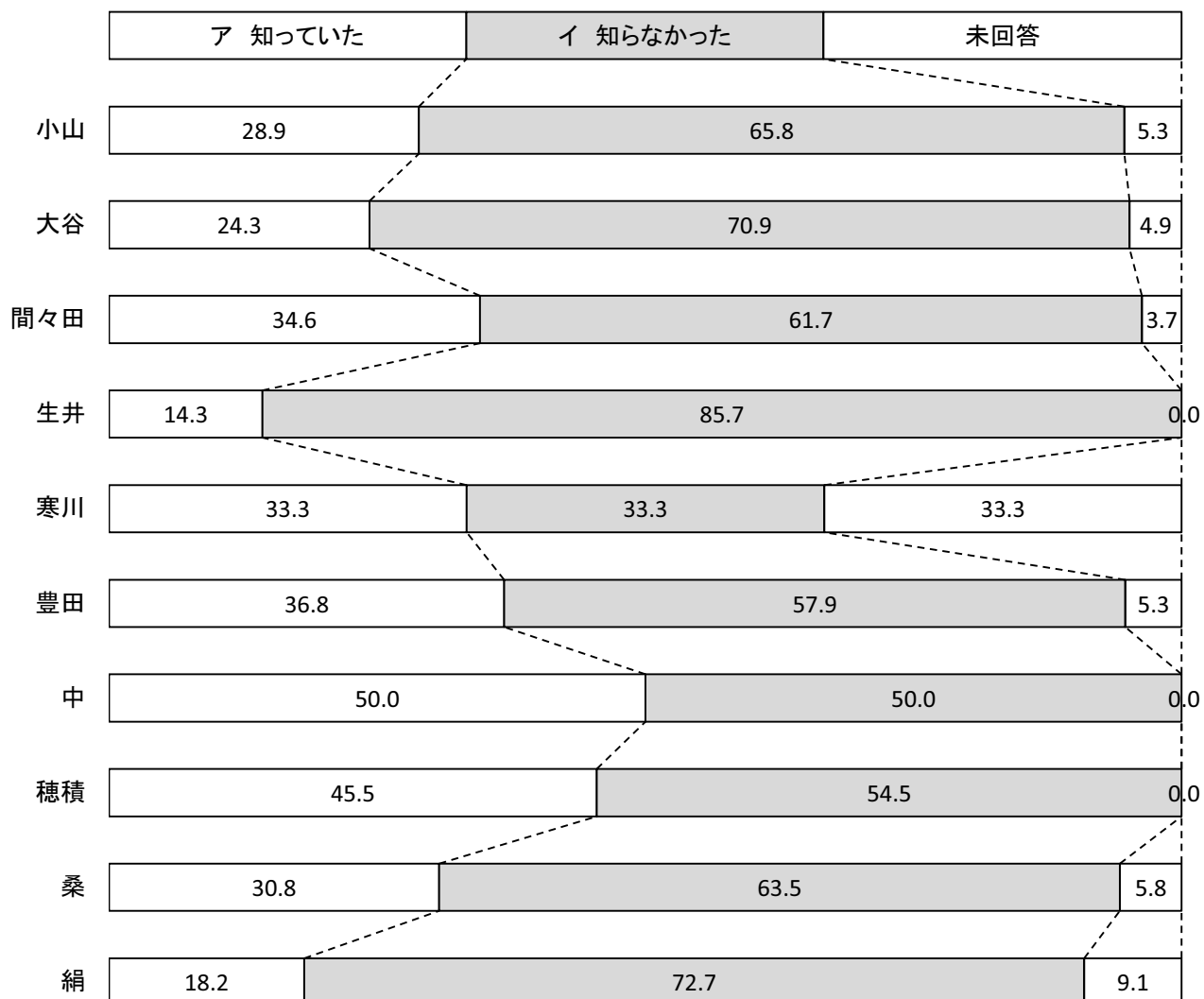
また、「イ 知らなかった」と回答した人は、65.3%で、男性・女性の状況を見ても全体の比率とほぼ同様となっている。

② 年代別にみると、「ア 知っていた」と回答したのは、20歳代が11.8%と最も低く、年齢が高くなるにしたがって「ア 知っている」と答えた人の割合が徐々に増えていることがわかる。

(参考) なお、明推協の知名度を地区別に見てみると、次のようになった。

明推協の知名度（地区別）

(単位：%)



問14. 「明るい選挙推進協議会」の選挙啓発活動の場として、どのような場所が有効だと思いますか。

- ア 学校の運動会
- イ 地区の体育祭
- ウ サマーフェスティバル、商工祭、農業祭など
- エ 駅のロータリー
- オ 大規模店の周辺
- カ 公民館での講座などを活用して
- キ その他

有効な選挙啓発の場所

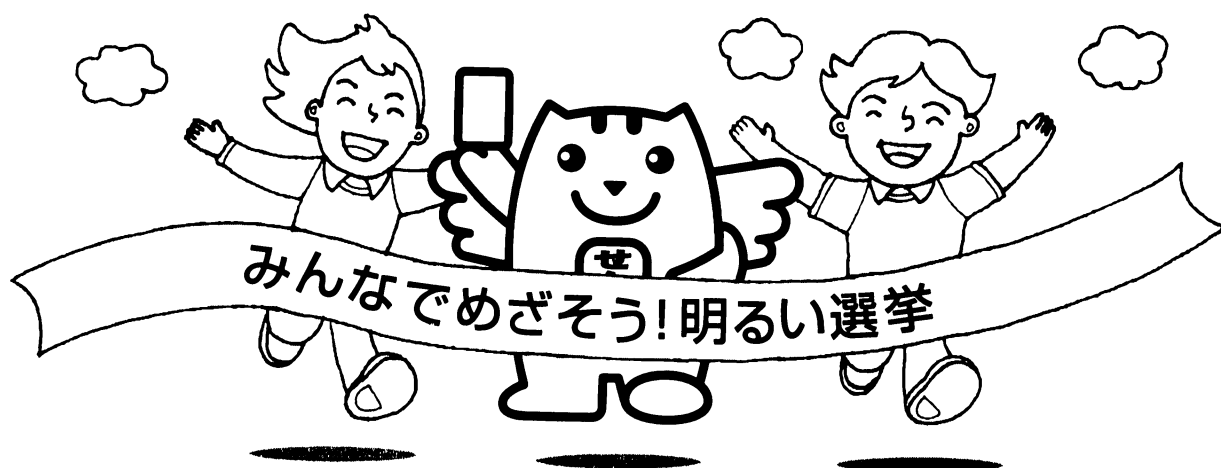
(単位：%)

	ア 運動会	イ 体育祭	ウ 農業祭	エ 駅	オ 店舗	カ 講座	キ その他	未回答
全体	6.5	6.3	27.4	16.1	19.5	9.3	6.1	8.8
男	8.4	6.1	24.0	13.3	16.7	12.5	9.1	9.9
女	4.9	6.5	30.3	18.6	21.8	6.5	3.6	7.8
20歳代	9.5	5.3	15.8	25.3	25.3	6.3	6.3	6.3
30歳代	7.6	11.0	35.6	10.2	15.3	6.8	7.6	5.9
40歳代	6.7	6.7	26.7	21.5	24.4	3.7	5.9	4.4
50歳代	3.6	1.8	32.7	14.5	20.9	7.3	7.3	11.8
60歳以上	5.4	6.3	24.1	9.8	11.6	23.2	3.6	16.1

問14：有効な選挙啓発の場所

① 明るい選挙推進協議会の選挙啓発活動の場として、どのような場所が有効だと思いますかとの問いに対し、全体で見ると、「ウ サマーフェスティバル、商工祭、農業祭など」と答えた人が27.4%と一番高い割合を示している。次いで「オ 大規模店の周辺」が19.5%、3番目に「エ 駅のロータリー」が16.1%となっている。

- ② 男女別にみると、「ウ サマーフェスティバル、商工祭、農業祭など」、「エ 駅のロータリー」、「オ 大規模店の周辺」とも、男性より女性の方が高い割合を示している。
- ③ 年代別にみると、20歳代では、「エ 駅のロータリー」と答えた人が25.3%と他の年代と比べ一番高い割合を示している。30歳代では、「ウ サマーフェスティバル、商工祭、農業祭など」と答えた人が35.6%と他の年代と比べ一番高い割合を示している。60歳以上では、「カ 公民館での講座などを活用して」と答えた人が23.2%と他の年代と比べ一番高い割合を示している。
- ④ その他の意見の中に、「インターネットやメールの活用」との意見があった。



選挙に関する意見

項目別の回答以外に、選挙に関する意見欄を設けたところ、様々な意見が寄せられたが、これらを内容別に分類すると、次のようになった。

○選挙啓発について（明るい選挙推進協議会の活動も含む）【60件】

- ・活動内容がよくわからない（8件）
- ・とてもよい活動だと思う（4件）
- ・PRが足りないと思う（3件）
- ・あまり必要ではないと思う（2件）
- ・選挙時のみではなく、常に活動が必要だと思う（2件）
- ・単に選挙に行こうと連呼してもほとんど効果はないと思う
- ・候補者の情報がほとんど発信されていない
- ・子供のころからの教育が重要だと思う（7件）
- ・有名人を呼んで講演会を開く（2件）
- ・インターネット、メール、ツイッター等を活用したほうがよいと思う
- ・期日前投票をもっと知ってもらおう
- ・成人式などで啓発をすべき
- ・若い人に選挙に行くような運動をしたほうがよい
- ・選挙の結果が自分たちの生活にどのように影響するのか、具体的に触れてほしい
- ・どうして選挙が大事なのか、選挙に行くことで何か変わるのか、もっと大声で啓発すべきだと思う
- ・選挙以前に政治に興味を持ってもらうことが重要である。政治に関心を持つ人が増えるのが最大の選挙啓発ではないか

○若者の選挙離れへの対応について【145件】

※選挙離れの理由

- ・若者が期待できる候補者がいないから（10件）
- ・若者へのアピールが足りない（3件）
- ・若者より高齢者中心の政治になっている（2件）
- ・議員の身勝手さ、責任感の無さなど
- ・政治家が言っていることと、実際に行っていることが余りにも違っているため、何を言っても信用されないと思う

※選挙離れへの対策

- ・小さいころから政治や選挙についての適切な学校教育が必要だと思う（18件）
- ・若者にも分かりやすい内容で、政治や政策について話してほしい（16件）
- ・インターネットを利用した投票や選挙活動の推進（11件）
- ・家庭の中で政治や選挙についての話し合いがあるとよい（5件）
- ・手軽に投票できるようにしてほしい（4件）
- ・投票者に特典を棄権者に罰を与える（4件）
- ・若者による政治が必要だと思う（4件）
- ・若者の集まる場所での選挙活動、啓発活動が必要（4件）
- ・職場で政治や選挙についての話し合いがあるとよい（3件）
- ・親が選挙に行けば、その子供も行くようになると思うので、若者というより中高年に焦点を当てるべきだと思う（2件）
- ・若い人たちにも関心が持ってもらえるような政策を考える（2件）
- ・若者と議員が選挙時以外にももっと話し合える機会があるとよい（2件）

○投票所について 【98件】

※投票所の場所

- ・今のままでよいと思う（20件）
- ・投票所をもっと増やしてほしい（12件）
- ・コンビニで投票できればよい（5件）
- ・駐車場が広いところを選んだほうがよい（5件）
- ・駅にあったら出勤前に寄れるので、選挙に行きやすいと思う（4件）
- ・大規模店で投票できるとよい（4件）
- ・高齢者が利用しづらい（3件）
- ・投票所の場所が分かりづらい（3件）

※投票所の雰囲気

- ・投票所の雰囲気が暗い、堅苦しい（13件）
- ・音楽でも流してほしい（2件）
- ・職員の数が多すぎる（2件）

※投票の方法

- ・パソコンや携帯電話でも投票ができればよい（7件）
- ・郵送などで投票できればよい（3件）

○選挙公報について（広報カーも含む）【81件】

※選挙公報

- ・選挙公報は内容が伝わりにくい、わかりにくい（6件）
- ・今のままでよい（4件）
- ・選挙公報が来ないので、まったく情報が分からない（2件）
- ・もっと早く公報を配布してほしい（2件）

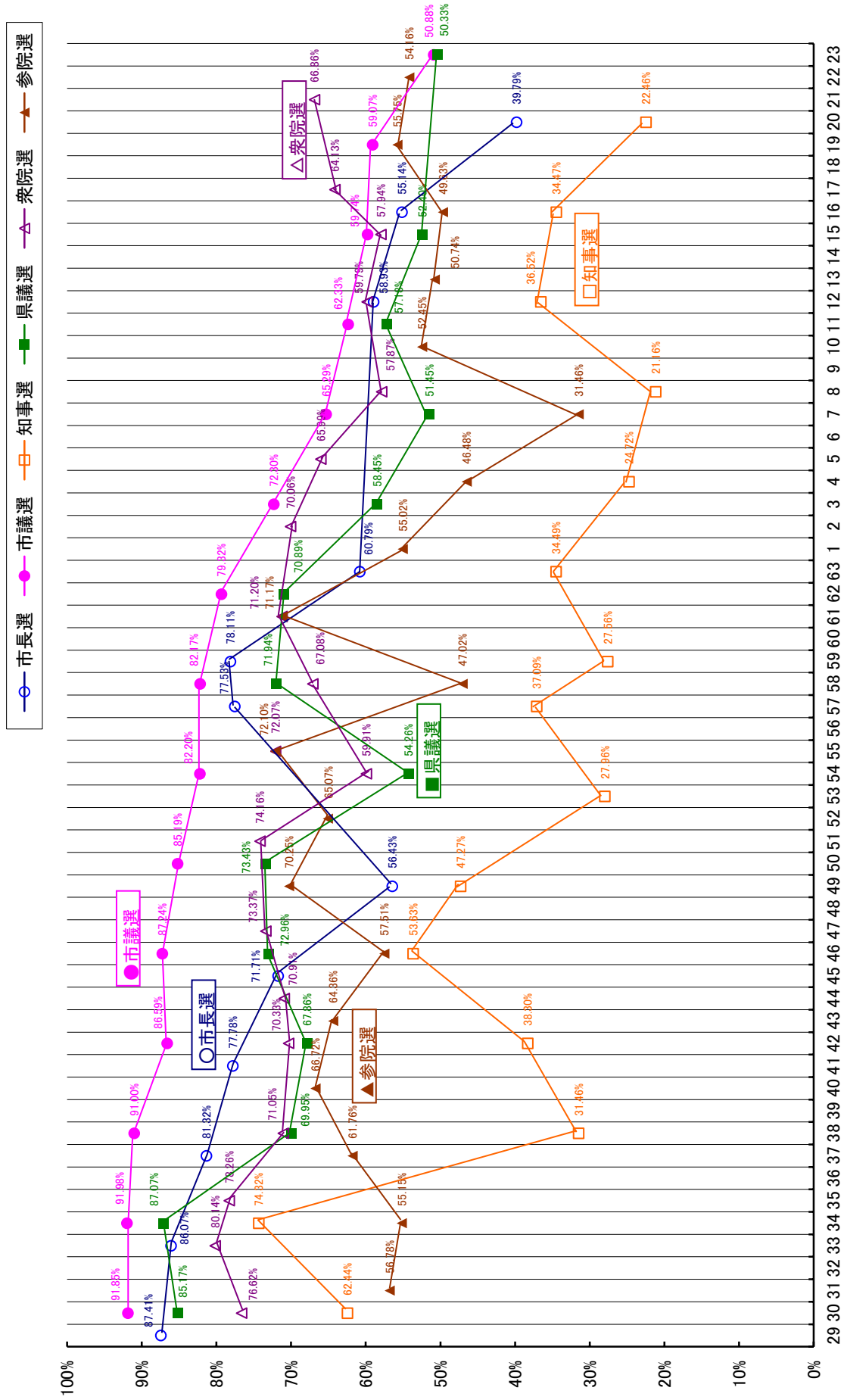
※選挙カー、広報カー

- ・選挙カーまたは広報カーがうるさい（21件）
- ・選挙カーまたは広報カーは何を言っているのかわからない（9件）
- ・PRの工夫によって選挙への関心も変化すると思う（3件）

○その他【50件】

- ・選挙に関心がないわけではなく、みんな誰に投票してよいか分からない。誰でも同じだと思っているのだと思う。もっとそれぞれの候補者の違いを明確にしたらいんじゃないかと思う。
- ・地方レベルの選挙が自分の生活にどう影響するか、自分も含めいまいち分からないので、根気よく頑張してほしいですし、このアンケートもよい方法だと思いました。
- ・誰に投票しても政治は変わらないという考えの人が多と思うので、そうじゃないんだと思わせてほしい。
- ・選挙がある時だけ議員の方たちが顔を出して、この中から誰を選びますか？といわれても正直決められない。もっとどんな議員がいるかを知ってもらえるようにしたほうが良いと思う。
- ・議員にも定年退職があったほうが良い。若い議員が少ないと若者の関心も少ない。
- ・とにかく選挙が近くなると、挨拶に来たり、街頭に立ったりというのはうんざりです。日ごろからの政治活動があまり感じられない人には投票したくありません。投票したい人がいないから、選挙に行かないのではないのでしょうか。

各種選挙の投票率の推移（昭和29年～平成23年）



参考資料：グラフで見る投票結果より（小山市選挙管理委員会調べ）

平成23年度小山市明るい選挙推進協議会活動状況

月	事業内容
4月	・ 県議選啓発、期日前投票管理協力 ・ 市議選啓発、期日前投票管理協力 ・ バースデーカード作成（役員）
5月	・ 総会 ・ 講演会
6月	・ 第1回役員会 ・ バースデーカード作成（役員） ・ 第1回企画調査部会 ・ 第1回広報部会
7月	・ 第1回研修部会 ・ 第1回若年者啓発部会
8月	・ 第2回企画調査部会 ・ バースデーカード作成（企画調査） ・ 第2回研修部会
9月	・ 会員視察研修【榛名湖方面】 ・ 明るい選挙啓発ポスター審査会 ・ 第2回役員会 ・ 第2回広報部会 ・ 第2回若年者啓発部会
10月	・ 会報「白ばら」発行 ・ 第3回企画調査部会 ・ 第3回広報部会 ・ バースデーカード作成（広報） ・ 明推協指導員研修会 ・ 学園祭啓発
11月	・ 明るい選挙に関する意識調査 ・ 農業祭啓発 ・ 学園祭啓発 ・ 臨時役員会 ・ 第3回若年者啓発部会
12月	・ 第3回役員会（さいたま市視察研修） ・ 第4回広報部会 ・ 第3回研修部会 ・ バースデーカード作成（研修）
1月	・ 第4回企画調査部会
2月	・ 広報「明るい選挙」掲載 ・ 明推協会員研修会 ・ 第4回役員会 ・ 第4回若年者啓発部会 ・ バースデーカード作成（若年者啓発）
3月	・ 第5回役員会
随時	・ 上記のほか、各地区会議・常時啓発については随時開催

明るい選挙に関する意識調査報告書（平成23年11月調査）

平成24年3月15日 発行

小山市選挙管理委員会内 小山市明るい選挙推進協議会

〒323-8686 小山市中央町1-1-1

Tel 0285(22)9481 Fax 0285(22)9480



**もっと素敵な
社会のために、
もっと選挙に関心を**